教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【いきる】 2【かかわる】 3【そなえる】	①【かけがえのない生命】全ての生命は，かけがえのないものであることを実感し，大切にする。 ⑤【やり抜く強さ】救援活動などに従事した人々の働きと苦労を通して，どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。 ⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し，他人の喜びを自分の喜びとして共感する。 ⑮【震災津波の様子と被害の状況】 3.11 東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	・総合的な学習の時間 ・道徳

平成 25 年度西南中学校「復興教育」全体計画概要

3.11「東日本大震災」を乗り越え，未来を創造していくために，10 年後，20 年後のいわての復興・発展を担う子どもたちを育成することが，被災した岩手の教育に課せられた使命である。本校では，被災者と同じ県民として，3.11「東日本大震災」を風化させることなく，これからのいわての復興・発展を支える人づくりのために『復興教育』に取り組む。

【復興教育の目的】

郷土を愛し，その復興・発展を支える人材の育成（復興・発展を支える人づくり）

【学校経営とのかかわり・位置づけ等】

● 学校教育目標
　広い視野に立ち 希望に向かって自ら学ぶ 創造的な人間の育成
● 学校経営のキーワード
・知・徳・体のバランスのとれた教育 **※復興教育を通して「心」を耕す**
・自分に誇れる中学校生活を送ろう **※復興を支える人間をはぐくむ**
・よりよい西南中をつくろう

【経営の重点項目】

・基礎基本を定着させる
・たくましく生き抜く力を身につけさせる
　※復興教育を通して生きる力をはぐくむ
・特別支援教育の充実
・生徒指導の充実
・校舎内外の環境美化
・学校，家庭，地域が連携した生徒指導

【まなびフェストの重点項目】

● 学力の向上に努める
　・家庭学習 1 年 60 分　2 年 70 分　3 年 80 分
● 生徒会活動の充実に努める
　・ 元気なあいさつが飛びかう
　・復興教育に主体的に取り組ませ，達成感や成就感を持たせる
● 家庭や地域との連携を深め，健全育成に努める
　・学校の様子を知らせる（校報・たより・懇談会・授業参観など）

キーワード：見る・聞く・関わる

具体的な取組み

◆復興教育推進校
◆実践的防災教育総合支援事業実践校

【体験から学ぶ】 1 年：陸前高田市 2・3 年：釜石市
・被災地の現状把握（見る） そなえる⑮
・被災者から学ぶ（聞く） いきる① ⑤
・ボランティア活動（関わる） かかわる⑪

【避難訓練・防災教育】
そなえる ⑮ ⑳
・地震，火災への訓練 ・全校朝会「釜石の奇跡に学ぶ」

【生徒会活動】 かかわる⑪
自分たちに出来ることを考える
・「募金活動」 ・「花苗のプランターを贈る」

【各学年の取組】 いきる③ ⑤
3 年 ・講演会「いのちの輝き」笹原留似子氏
　・新聞の投書から考える 他
2 年 ・道徳「わたし，あなた，そしてみんな」 他
1 年 ・復興のまなびワークシートづくり 他

【道徳】 かけがいのない生命①
・「動物たちの大震災」映画鑑賞

【文化祭・総合的な学習での発表】 ・復興教育を通して学んだこと ・後世に伝えること ・体験から学んだこと等

実践１

【題　　材】　「体験から学ぶ」
【対　　象】　第１学年（56 名）
【訪問場所】　陸前高田市

▲正徳寺の住職　千葉了達さんから寺の下まで押し寄せてきた津波の話と約 5 カ月間，ピーク時には 150 人の被災者を受け入れた話を聞く

【実践の概要】

１　目　的

(1)将来にわたって復興を支援する人材ととらえ，その意識の涵養を図る。

(2)被災地に足を運び，現実を知るとともに，中学生に今できることを考える機会とする。

(3)現地で実際に復興に携わる人からお話を伺い，震災と復興への理解を深める。

２　実践の流れ

◆ 復興学びワークシート学習№1～2
◆ プランター花植え付け作業　　◆ 寄せ書きづくり
◆ 復興学びワークシート学習№3　◆ 道徳「生命の尊重」
◆ 文化祭　ステージ発表

３　当日の日程

◆出発（出発式）9:00
◆小友町・正徳寺着（昼食，住職講話，合唱披露）11:30～14:00
◆高田第一中仮設住宅着
（花苗のプランターを贈る・寄せ書き寄贈，合唱披露）14:45
◆奇跡の一本松（黙とう）　陸前高田発　15:15　◆学校着（到着式）17:30

▲高田一中の仮設住宅に住む人たちの前で学年合唱を披露する

▲高田一中の仮設住宅を訪問し，「花のプランター」と被災した方々が少しでも元気になるように全員でと書いた「メッセージカード」を届ける

【生徒の感想】

◆住職さんから「命」の大切さについて教わった。自分が生まれて，今こうして生きているのも父と母がいるから。いざとなって自分の気持ちを伝えることは難しく感じる。でも今ならいえる。「私のこと生んで，ここまで育ててくれてありがとう」と。
◆「自分の家族の命が最後だったら？」と聞かれてどうするか答えられなかった。今考えてみると，自分は親に感謝の気持ちを伝えなければと思った。普段言えない「ありがとう」を伝えたいと思う。
◆陸前高田市を訪問して心に残ったことは，沿岸の人達の力強さです。励ましに行ったのに，逆に励ましてもらいました。私たちも頑張ろうと思いました。

▲「奇跡の一本松」の前で黙とうをささげる

【ま と め】

◆正徳寺住職（千葉さん）より震災時の様子や生命の尊さを学んだ。住職さんからは，最後に「自分の命が最後かもしれないとき，残された時間をどう過ごすか，父母にどういう言葉をかけるか。」という生徒への問いかけがあった。生徒達にとって，「命・縁・死」についてあらためて考えさせられる時間になった。
◆高田一中仮設住宅の訪問で，住民の方々に合唱を披露し，激励メッセージの寄せ書きを渡してきた。とても喜んでくれた。生徒達にとっても，温かく迎えてもらい感謝の念と復興への意識の高揚にもつながった。
◆被災地訪問をし，現地の様子を実際に見て，当時の様子や命についての話を聞くことによって，生徒達は今まで意識していなかった日常のことについてあらためて考えることができ，今後の生活行動の意識の高揚につなげることができた。

実践 2

【 題 材 】 「体験から学ぶ」 【 対 象 】 第 2 学年（60 名） 【訪問場所】釜石市

【実践の概要】

（1）実践の流れ

◆ 総合 岩手の復興のために私たちができることを自由討論

◆ 総合 自由討論会で出た内容を元に私たちができることを絞る

＊釜石ボランティアセンターとの交渉。（生徒が考えたボランティア活動の内容や講話内容を伝え，実現できるかどうかの検討）

◆ 道徳 ボランティア資料活用 ◆ 道徳 ボランティアについて全体説明

◆ 総合 事前学習 ◆道徳 震災を考える～映画鑑賞「犬と猫と人間と 2」

◆ 総合 体験から学ぶ 釜石市訪問

◆ 学活 事後学習（作文），お礼状 まとめ ◆ 文化祭 ステージ発表

（2）当日の活動内容

①津波被災体験講話 講師：釜石ボランティアセンター職員 矢浦一衛氏

②ボランティア活動内容 ・「菜の花プロジェクト」畑への堆肥散布 ・花苗のプランターを贈る

【生徒の感想】

◆被災したのにも関わらず，津波によって壊された町を復興させようと頑張っている姿がとても心に残りました。心への負担も大きいはずだから，少しずつ復興しているけれどまだまだ支援が必要だと思いました。そして私は，ボランティアをしていてあきらめないことを学びました。◆津波によって被害を受けた地域や人々に，ボランティアで復興をしようとして支援している人達が大勢いることを学びました。そして支援している人達から被災した人たちへの思いが伝わってきてとても心が温かくなりました。人の大切さ，優しさを学ぶことができて嬉しかったです。◆亡くなった人達のためにも震災の事を忘れないように心掛けること。節電と節水，食べ物を残さないなどの小さな支援を普段の生活から行うこと。◆今回の経験を踏まえて，沿岸の方達よりも恵まれた生活をしているという自覚を持ち，積極的にボランティアや募金に協力しようと思いました。

▲矢浦さんから釜石市の被状況の説明や映像に震災のすさまじさ知る

▲「菜の花プロジェクト」，鵜住居地区で肥料まきに汗を流す

▲花苗のプランターを被災地に届ける準備をする

【 ま と め 】

◆ボランティア活動を行う前に，①自分達の生活を振り返る。②道徳の授業を通して，ボランティアについて考えさせる等の活動を行うことで，活動の目的や意義を理解させることができた。

◆今後も，被災地との繋がりを途絶えさせないために，活動形態を考えながら細く，長い活動を考えていく必要がある。

実践 3

【 題 材 】「体験から学ぶ」

【 対 象 】 第 3 学年（67 名）

【訪問場所】 釜石市

▲特別養護老人ホーム「仙人の里」を訪問し，花苗のプランターを贈る

【実践の概要】

(1)事前学習「講演会」

◆講師：復元納棺師　笹原留似子氏

演題「いのちの輝き」　～東日本大震災の活動を通して～

(2) 当日の日程

◆出発(出発式)8:00

◆特別養護老人ホーム「仙人の里」 合唱披露と花苗のプランター贈呈 9:30

◆釜石市社会福祉協議会生活ご安心センター 10:10

◆旧鵜住居駅にバスで移動 その後徒歩で「防災センター」に移動 10:30

◆被災体験講話 鵜住居防災センター 合唱 11:00～12:00

◆「菜の花プロジェクト」作業 橋野・栗林に分かれて作業 13:00～14:20

◆釜石市発 14:30　◆学校着(到着式)17:30

▲復元納棺師 笹原留似子さんから講演から，命の尊さとやり抜く強さを学ぶ

▲鵜住居地区防災センター内の被災の様子を聞く。震災のすさまじさを学ぶ

【生徒の感想】 ～講演会「いのちの輝き」～

◆私は最初に「復元」ってなんだろうと思いました。そしたら，亡くなった人を元に戻すという仕事だということがわかりました。そのとき思ったのは，ひいおばあちゃんもきれいにお化粧されていたので，誰かが手をかけてくださったのだと思いました。笹原さんのお仕事はすばらしいことがわかりました。生かされているということを大切にして生活していきたいです。◆復元納棺師の仕事はとても大変で苦労のあるお仕事だけど，とてもやりがいのあるものなのだと思った。私が「やっていてよかったと思うことは何ですか」と質問して，一番印象に残っている笹原さんの言葉は，「顔のしわとかをキレイに復元できるとよかったとなる。顔のしわは生きていた証だから」という言葉です。笑ったときなどにできるしわはすごくステキだと言っていました。私は「生かしてもらっている」という言葉を忘れず，食べ物や周りの大切な人たちに感謝して生活していきたいです。

【生徒の感想】 ～体験から学ぶ～

◆今日，復興支援ボランティアで釜石に行ってきました。震災のあとに行くのは初めてで，正直，もうけっこう復興しているだろうという思いでした。でも実際に市内に入ってみると，津波で持って行かれた壁がそのまま残っていたり，トラックが行ったり来たりで，震災から2年が経ったという感じではありませんでした。プレハブの家がまだあちこちにあったり，線路がなくなった形だけのホームなど，まだまだ復興には時間がかかるということを痛感しました。バスでの移動中，プレハブの家に帰っていく小学生を見たときに，同じ県内でも内陸か沿岸かの違いだけで数年後がこんなにも違うのかと思いました。内陸では，もう震災の影響で生活に困るなどないし，もう2年も前の話だっていう過去のことになっているけど，沿岸では未だにプレハブの仮設に住んでいて，見つかっていない人までいます。沿岸の人たちからすれば，きっと「まだ2年」なんだと思います。説明をしてくれた人が，「震災のことを忘れられるのが一番怖い。」と，言っていました。2年たったからと，復興したなんて思ったらいけない。確かに，もう自分に「震災のせいで」っていうことはないけれど，沿岸の人たちは，まだまだ震災の影響が続いています。だから，自分たちも震災を「終わったこと」にしてはだめだと思います。今回のボランティアでは，そういうことを感じました。

【　ま　と　め　】

◆震災の年に入学してきた生徒たちということもあり，1年生の時から震災について総合的な学習の時間に取り上げてきた。1年生の時には，「新聞の投書」や「震災関連の新聞記事」を題材に，自分の考えをまとめた。また，被災した方の講演会（大槌町の教育長さん，さいとう製菓の専務さん），交流した宮古二中からいただいたDVDを見ての感想等を通して，被災した方の気持ちを自分なりに考えた。2年生の時には，講演会を通して命の尊さ，自分の存在価値について考え，新聞スクラップなどを通して，自分たちにできるボランティア活動について考えた。3年生は，まとめの時と考え，実際にボランティア活動に被災地に行き，自分たちにできることをやってこようということにした。生徒たちはよく考え，よく活動したと思う。単発的な活動ではなく，3年間を見通した活動が必要であり，それらが生徒の心を育てると感じた。

▲来春の春，被災地が菜の花で黄色に染まることを願い，懸命に作業する